



## 今は、雌伏の時、同時に挑戦する時期



東京都 23 区支部 支部長  
金森 捷三郎

2021年3月も終わり、新年度が始まります。この一年間は、新型コロナウイルスの世界的蔓延で、予定されていた行事は次々にキャンセルされ、内輪の会合も遠慮がちでほとんどの校友会活動が委縮してしまいました。

本来、人と会い、切磋琢磨することで人間を磨くのが早稲田の人間教育の要です。振り返ってみれば学生時代に学んだことといえば、強烈な個性を持った友人たちと出会い、国家社会を論じ、併せて付き合い方に苦勞したことで得たことです。友人たちは価値観から行動様式まで異なり、一筋縄ではいかない怖い人がたくさんいました。そこまでやるのか、自分の人生をささげてまでやるのかという思いで見ていた友人がおりました。あまりの徹底ぶりが怖いと思ったのです。一方ではその反対にいつも安全確保をしていた友人も少なくありませんでした。自分の生き方を皆それぞれに考えて決めているのが当然のことと思えました。そこから自分が得た最大のものはいかに生きるべきか、何をすべきかを定める姿勢、価値観だったように思います。

さらにこれに加えて、学業の本筋である卒論のまとめがありました。学問、科学の方法、手順により、間違いない結論を導くこと、事実、知識を重んじそれに基づいて論理的に考察を進めることなどを学んだと思います。度々読み返し、論理の弱点を補強し、事実データを何度も確認したことが、本来いい加減な性格を自覚しながら気を付けてやってゆく習慣を作ってくれました。

現役学生たちは教室へ行かずにリモート教育を受け、人と対面せずに学ぶことが多いため同情を集めています。それは真に同情に値しますが、これまでも不十分な

環境を強いられた時期はいくつもありました。例えば1960年の安保改定の時期などは、学生は国会に向けてデモをかけ、東大生が亡くなるなど、騒然とした雰囲気、勉強に専念とはいきませんでした。また、1965年頃から全国の大学で燃え盛った全共闘運動の時期には学校が封鎖され、早稲田にも警官隊が入りました。東北大地震の時期も落ち着いて勉強に専念できない環境でした。そのような時期に在学学生はどうしていたのでしょうか。今のようなりモートによる勉強の方法もありません。学校の勉強こそ不自由でしたが、或る者は旅に出、或る者は書物に没頭して深く沈潜し、それぞれにいわば人生修行を行ったと思います。これらは決して長い人生で無駄なことではありません。むしろ異常な時代に出会った特権であったかも知れません。

このように考えると、今の新型コロナウイルスの時代も、これを自分を磨く試練従ってチャンスと考えることができるのではないのでしょうか。同じことを我が東京都23区支部は考えました。この時期だからこそできること、役立つことは何かと考えました。一つの結論がマスク事業を通じて、大学、学生のお役に立とうという事でした。幸い、大方の賛同を頂き、マスク事業当初の目標を達成し、母校に当初の予定を上回る寄付をすることができました。現在は好評に応じてさらに事業を追加しているところです。

この件で詳しいことは東京都23区支部のホームページをご覧ください。

さて、コロナ禍はまだ続いています。おそらくワクチンが行き渡り、全世界的に収束するまでにはまだしばらく時間が必要でしょう。そこでまだ、我々には試練とチャンスがあり、収束してからもすべきことが多い違いありません。何か他に今こそできること、すべきことはないか。これから先もずっと考え実践してゆきたいと思います。

当支部の皆さん、下を向かず顔を挙げてこの時期を生きようではありませんか。

各位のご健勝と、前向きな生き方を心からお祈りしています。

## 東京都23区支部 マスク事業

コロナ禍の中、対面での一切の稲門会活動が出来なくなった状況下で、支部として何か出来る事はないだろうかとズームでの幹事会で検討を重ねました。

その頃、大学から困窮のため修学が困難な現役在生に対する緊急支援金の寄附を募る旨の発表がなされました。それを受け、23区支部でオリジナルマスクを作成して、同支援金の為の寄附を募ろうという事になりました。当時はマスクの素材の仕入れも困難な状況でしたし、わずかな生産数からいっても、なかなか制作を引き受けてくれるところがありません。そんな中、10年来の友人で、ピクアーティストの舞台衣装を数多く手掛け、デザインマスクも販売している服飾デザイナーに相談したところ、趣旨を理解して頂き彼の「コートメール」自社工場で制作してくれることとなりました。

そして昨年6月、各区の稲門会のご協力を得て1枚1500円でエンジ色の支援マスク1000枚が配布されました。材料費・工賃の実費を差し引き半分の78万5000円を大学への緊急支援金の寄附に充てることが実現いたしました。

その後、増産する予定がないかと問い合わせも多くなりました。しかしながら、会合等がない中、注文配送など各区稲門会の手を煩わせる事のない方法を模索して参りました。

そして現在、制作をお願いしたコートメールに協力を得て、23区支部のHPから、コートメールの注文ページにリンクを貼ることで通常の通販と同様に数々の決済方法が使える個別のオーダーが可能となりました。同じように売上の一部は在学生支援金として大学への寄附となります。稲門会に所属していない同窓生のみならずもご案内頂き、少しでも在学生の修学にお力添えを賜りたくお願い申し上げます。

(金子秀二幹事長記)



### ■東京都23区支部オリジナルマスク お申込先

東京都23区支部のホームページ(23tomonkai.com)から、「お知らせ」の「第2回早稲田大学校友会東京都23区支部稲門会オリジナルマスク販売のお知らせ」をクリック、そして「ご注文や商品の詳細はこちら」をクリックして、注文ページからお申込みください。備考欄に所属稲門会名をご記入頂きますようお願い致します。

## 2021稲門祭(10月24日(日)開催予定)記念品

### 4,000円コース



オリジナルデザイン  
帆布トートバッグ



ネクタイ(1本)  
《2020年版・2021年版》



ちりめん金封ふくさ  
エンジ/紫 2点セット



ウイスキー「早稲田の杜」  
2021稲門祭記念モデル  
【お申込先：株式会社カインズ】  
※6本単位でのご注文を専用電話  
(0120-532-111)にお願いします。

### 10,000円コース



ブルオーバージャンパー

### 2,000円コース



ジェットストリームボールペン(1本)  
《2020年版・2021年版》  
※エンジ軸(上)：太さ0.5mm  
シルバー軸(下)：太さ0.7mm



ゴルフボール



マイクロファイバークロス3枚セット



タオルはんかち2枚セット

### ■稲門祭記念品 お申込先

2021稲門祭記念品申込係 株式会社デューク・コーポレーション内(担当:内田)  
email: info@waseda-shop.com HP: http://www.waseda-shop.com

- 発行日 2021年4月20日/第20号
- 発行所 〒107-0062 東京都港区南青山6-2-9 南青山NYKビル10階 旭産業株式会社
- 発行者 東京都23区支部長 金森捷三郎(第3ブロック)
- 広報委員 齋藤誠造(荒川稲門会) 織田理英(江戸川稲門会) 大野修一(豊島稲門会)  
藤森敏光(中野稲門会) 谷口和彦(文京稲門会) 佐藤裕彦(大田稲門会)  
勝山宏則(品川稲門会) 橋本信博(港稲門会)